

【研究名】：S-1 服用継続に及ぼす因子の検討

【目的】

テガフル・ギメラシル・オテラシル(S-1) 単独療法を用いた胃癌術後補助化学療法の大規模試験 (ACTS-GC) が 2001 年より実施され、2007 年その結果が報告された。結果は、全生存期間および無再発生存期間において有意に S-1 群が手術単独群を上回り、その有効性が証明された。その一方で、S-1 が継続できたのは 65.8% で消化器症状などの副作用が問題となった。

そこで、S-1 の服用状況を調査し、S-1 服用継続に及ぼす因子を抽出してその対策について検討する。

【研究意義】

S-1 服用継続に及ぼす因子を明らかにすることで、より良い対策につながる。

【研究内容】

2009 年から 2013 年までに胃癌術後補助化学療法が目的で S-1 を服用した患者を対象に、年齢、性別、体表面積、投与レジメン、stage、S-1 投与量、S-1 投与スケジュール、投与前の肝機能検査値・腎機能検査値・血液検査値、投与スケジュールの変更、服薬量の減量、投薬中止の有無およびその理由等を調査する。

【研究期間】

2014 年 3 月～2015 年 3 月の 13 ヶ月を予定

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

講師 田中 亮裕

副部長 田中 守

薬剤師 河添 仁

松山大学薬学部

教授 難波 弘行

特任講師 高取 真吾

学生 嶋崎 真耶

【研究結果】

服用継続中断の主な理由は消化器系副作用および血小板減少（計 78.9%）でした。また、継続服用に及ぼす因子としては投与スケジュールの変更、服用中断に及ぼす因子として過量投与量での開始、Stage I、Ccr<66 mL/min、悪心の発現であることが明らかとなりました。この研究成果は、Journal of Cancer 誌(2015; 6(5):464-469)に掲載されました。